

危険に対するセルフセクションと補償賃金仮説の実証分析

財団法人関西情報・産業活性化センター 久米 功一

【 要 旨 】

仕事に付随する危険に対する個人の好み(セルフセクション)を考慮したモデルを用いて、補償賃金仮説について実証分析した。その結果、異なる二つの危険の選択には相関があり、危険に対するセルフセクションが賃金に有意に影響することを確認した。具体的には、致命的な怪我や肉体的な疲労に対するセルフセクションには正の賃金プレミアムが支払われている一方、致命的でない怪我や精神的な疲労に対しては負のプレミアムが支払われていることがわかった。平均賃金で見た場合、肉体的な疲労には正の、精神的な疲労には負の賃金プレミアムが確認された。また、セルフセクションを考慮しない場合のバイアスの方向が危険の種類によって異なることを確認した。さらに、アンケートから得られた危険に対する選好パラメータを用いた結果、危険回避的な人ほど、致命的でない怪我や肉体的な疲労を伴う仕事を選ぶことも確認した。これらの結果は、危険を伴う仕事に対する労働供給には、セルフセクションメカニズムが働いており、危険の種類によってその補償賃金プレミアムも異なることを示している。

JEL classification number : J28, J31

Keyword : 補償賃金、労働災害、危険回避度、セクション・バイアス

本稿は、大阪大学 21 世紀 COE プロジェクト「アンケートと実験によるマクロ動学」において実施された「くらしの好みと満足度についてのアンケート」の結果を利用している。アンケート調査の作成に寄与された、筒井義郎教授、大竹文雄教授、池田新介教授（いずれも大阪大学社会経済研究所）に感謝する。また、本稿に対して、大竹文雄教授（前掲）、大日康史（国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官）より大変貴重なコメントをいただいた。記して感謝したい。いうまでもなく、本稿における誤りの全ては筆者に帰するものである。

連絡先 : kumekoichi@hotmail.com